

総合的学習キャリアアップフィールド

12年目研修にどう取り組んだか：研修教員との「往復書簡」より －「国際理解教育の考え方・進め方」コース－

英語教育専修 寺島隆吉
羽島市立中央中学校 西 薫

1 はじめに

今年度（2005）の12年目研修は英語教育一人（高校、英語）、国際理解教育二人（中学、美術；高校、英語）の合計3人だった。初日（8月1日）でお互いの自己紹介と研究テーマを出し合った後、私の方から事前に指定してあった文献についてのレポートを読み合わせして討論をおこなった。

それ以降は自分の研究テーマ・研究計画にしたがって研修をすすめ、週1回をめぐりにレポートを書いてもらい、それを寺島宛に送ってもらうことにした。私は送ってもらったレポートにコメントを書き、毎回それを他の二人にも送った。こうしてお互いの研究がどのように進行しどのように深まっていくのかを知ることによって研修がより実りあるものになるのではないかと考えたのである。

研修の最終日（9月28日）にはお互いが「最終レポート」を発表し討論をして今年度の研修を終えた。ただし8月11-12日は私が主催する英語教育研究会 JAASET の全国研究集会があるので中間の研修日としてその研究会にも参加してもらうことにした。以下は、研修生一人とのメールによる往復書簡である。これを見ていただければ、研修が指導教員と研修生との共同作業としてどのように進行していったかを理解していただけるのではないかと考える。

（なお、このメールは研修生の了解を得て公開するものであるが、私事にわたる部分は削除した。またメールの日付が2005年7月30日から始まっているのは、研修初日以前から相互のやり取りが始まっていたことを示している。）

2 指定文献を購入して

寺島先生 050730

お返事ありがとうございました。12年目研修のHPにも詳しい場所などはなく、心配していたところでした。ありがとうございました。

指定文献『国際理解の歩き方』は2件目の本屋でようやく取り寄せることができました。今はまだベトナム戦争のこと、地雷のことについて書かれたあたりを拝読させて頂いているところです。先生が講義の中で学生に見せられたといういくつかの貴重な映像を自分も見なければならぬと感じました。主人は社会科の人間ですが、「国際交流というより、社会科としてもとて

も貴重で興味深い。」と非常に興味を持ったようで、後で本を貸す約束をしました。

私はといえば、自分の知識理解の程度の低さが恥ずかしくなってきました。今までは小学校の現場での日先の活動だけに目を向けていたような気がします。テーマが大きくて、何から手をつけていけばよいか分かりませんが、素晴らしい機会ですので、多くのことを学びたいと思っています。よろしくお願いします。

3 指定文献を読み進んで

寺島先生 050731

今日は「国際理解の道具としての英語」のあたりで日頃から感じていることと重なる部分が多くあり、思わず e-mail させて頂きました。

何年か前から「総合学習」が始まり、3本の柱は「福祉」「情報」「国際理解」であったはずなのですが、何故か国際理解イコール英語教育という図式が当たり前のようになりつつあります。初めの数年こそ、欧米以外の国から先生を招き、総合学習とからみあわせて環境問題について話し合う会をもったりと、試行錯誤する時があった（教育委員会からも英語圏以外の国の講師を派遣して頂いた）のですが、年が経つにつれて、「よその都市に負けてはならない」とばかりに、「英語教育」にのみ力が入り始めた感があります。

何故、国際理解イコール英語なのか？と若い頃から疑問に思ったものですが、その疑問に答えようとするような実践を積んでみえる先生もまだないままでした。（とにかく始まったばかりで）「国際協力」「平和」というようなニュアンスの全くない、中学校からおろしてきたような「英語の勉強」が国際理解になるのか納得がいかなかったものの、書店に並ぶ教員向けの本も「英語活動」ものばかりで、いかに小学校で英語を教えるか、ということに終始しています。この先、英語を、新しい扉を開ける「手段（道具?）」として、その上でどんなことができるか、子供に何をさせてあげられるか考えて行かなければと思います。

先生の、単なる語学学習でなく、国際理解教育に貢献できる英語の授業作りの取り組みを読ませて頂き、大変感銘を受けました。特に、学生と同じ年頃の兵士達の、家族に宛てた書簡集を教材に使われたということに涙がこぼれました。そんな素晴らしい授業を展開していらっしゃる先生を突き動かしているのは、単に学生に英語力をつけたいとか実践を積みたいというようなことではなくて、私たち地球上全ての国々に生きる者たちで解決していかなければならない理不尽な現場を目の当たりにしてこられた先生だからこそその熱い思いなのだと感じました。（英語どころか、日本語でさえ語彙が貧困で、本当に言いたいことを気の利いた文に表せないのが恥ずかしいです。）

奇形児のホルマリン漬けの写真を見て言葉が出てきませんでした。私は1358グラムの極低出生体重児として今の子供を授かるまでに、何年も不妊治療を重ね、死産も経験しました。そうやって、やっと母になれたからこそ、つらくて仕方ありません。この世に生を受けたというのに、神に選ばれてこの世界に生まれてきたというのに、一体どんな人間が、人の命をこんなにも惨たらしく弄ぶことができるのでしょうか。人間は自分たち「人間」の姿形を歪めてしまうような恐ろしい生き物に、いつからなってしまうんだろう。母親から生まれて無邪気に育った子供が、どうしてこんな恐ろしいことができる大人になってしまったんだろうと考え出すと、自分が今の立

場で子供たちに伝えられることは何か考えよう、できることをしていきたいと強く感じずにはいられません。

月曜日・研修初日にお会いするのに（しかもまだ最後までよみ終わっていないのに）今書かずにはおれませんでした。とりとめのない文で失礼しました。それでは、月曜日を心待ちにしております。よろしく願いいたします。

4 初日の研修を終えて

寺島先生 050803

昨日は、お忙しい中、我々の研修のために時間を割いて頂きありがとうございました。詳しくお聞きしたいことやお話したいことがありすぎて、ずいぶん喋りすぎてしまいました。申し訳ありません。それでも、まだまだお聞きしたいことや知りたいことがあり、次回に研究室におじゃまするのが9月の終わり1回のみなのももったいない気がします。

学校に戻って確かめましたところ、8月11日は1日12年目研修で出張の日でした。夜だけでもと思いましたが、小さい子供がおりまして都合がつけられませんでした。申し訳ありません。12日は終日参加させて頂きたいと思っております。1日だけになりますが、特に先生の国際理解教育に関わる力量養成講座でしっかり勉強したいと思います。よろしく願いします。

日々、こなしていない仕事や雑事に追われ、自分が勉強したいことや深めたいことのために時間が使えず、もどかしい思いをしています。こんな風に刺激を受け、自分のしたい勉強に没頭できたらどんなに楽しいだろうという思いが日に日に強くなってきました。

長くなってしまいました。研究集会の準備など、お忙しいと思いますがご自愛下さい。12日には、よろしく願いします。

追伸：文科省の国際理解教育に関わる通達文書(?)にアクセスするアドレスをぜひ教えてください。

5 夏の研究集会に参加して

寺島先生 050817

研究集会ではありがとうございました。もっと早くにお礼を申し上げるべきでしたが、子供が熱を出し、あたふたしているうちに数日が過ぎてしまいました。申し訳ありません。

遠方から多くの英語の先生方がおみえになり実践を交流される会に参加でき、刺激を受けました。「本当の学力とは何か」というところから皆さんで考えを深められ、様々な新しい方法を日々模索していらっしゃることを知り、小学校の現場でただ単に英語活動をうまくこなしていけばいいというものではないと感じました。自分が受けてきた英語教育をものさしにしているは大変なことになると実感しました。

NHK「世界潮流2003」『変わる世界の学力マップ』は大変興味深いビデオでした。家に帰ってから主人に話し、今度一緒にビデオを見る約束をしました。先生のおっしゃるとおり、OECD国際学力調査で「日本の子供の学力が落ちた」ということの真相について親や教師は知らないことはいけないことが多いと思います。少なくとも、教師はどんなテストが行われ、その結果どんなことがいえるのかを考えていかねばならないと思います。

N先生に送ったメールがアドレス間違いで戻ってきてしまい、まだ連絡が付きません。先生のメールについていた彼のアドレスから、もう一度送ってみます。なんとか夏休み中にもう一つのビデオを見てレポートを書きたいと思っています。(N先生のレポートがウイルス対策のせいで削除され見られませんでした！)

寺島先生にお会いすることができたおかげで、今年の8月15日はいつもとは違う気持ちで迎えました。テレビを見てはいろいろなことを考え、主人と、まだ未解決の問題について話し合いました。NHKで「じっくり話そう・アジアの中の日本」というアジア諸国の代表者と日本語で討論するおもしろい番組がありました。先生もいまごろ録画してみえるのではないかと思いつつ、各国の青年達の言葉を重く受け止めました。新聞の一面にも関連する記事があるのを主人がみつけ夫婦で話し合ったりもしました。大学卒業後、日々の仕事に追われて、考えるべきことも目をつぶって素通りしてきたことを恥ずかしく思います。このように考える機会を頂いたことに本当に感謝しております。

お盆以後の動静表を確認してみましたら、来週からはもうずっと会議や出張で勤務の日ばかりでした。寺島セミナーでは夏休み中も週1回は集まって議論されているそうですが、18日の午後などは皆さんいらっしゃいますか？まだ、本も読み切れておらず、はばかりなのですが、院生の皆さんがどんな勉強をしてみえるのか、参考になることが多いと思いますので、教えて頂けるとありがたいです。

6 「総合学習」について考える

寺島先生 050830

ご無沙汰していて申し訳ありません。このレポートも随分前にできてはいたのですが、お盆以後は自校の研究の仕事におわれ、あちらこちらにやりかけのままの仕事が残り、お恥ずかしいかぎりです。OECD学力調査のことについて考えることの方が急務のような気もするのですが、少しも時間が取れません。

『英語教育で何をめざすか』は私自身に大きく関わってくる話題だけに、とてもおもしろく(途中までですが)読ませて頂いています。あまりおもしろいので、いつもなら雑誌を読むのを楽しみにしている美容院でも続きを読んでいたほどです。辛口の意見に苦笑いしながらも、もっともな意見に納得することばかりでした。私は総合学習の国際理解教育を専門にしていきたいという思いから、小学校に英語教育が導入されるのであれば、とりあえずその現場で必要とされたいという思いでいっぱいでした。

「ゆとり教育」というのは、「知識偏重型の教育ではだめだ」「日本の子供は体験がなさすぎる」「自分の意見がもてない」「問題解決能力が足りない」「家庭や地域の教育力が低下している」—そういった問題に歯止めをかけるための方向付けであったと思っています。だからこそ「総合学習」は充実させていく必要があると感じています。残念ながら学校間でかなりの格差があり、福祉・環境などですばらしい体験活動をしくみ子供達も教科学習には代え難い大切なことを学んでいる学校もあれば、現場の教師も数年ごとにメンバーが代わり十分なカリキュラムができていない学校も多いようです。

計算ドリルや漢字ドリルでは学べないことをたくさん学んだ子供は、少々教科の時数が減ろう

とも、自分で学びたいことを選び・考え・解決する能力が育っているのではないかと私は思います。今になってまた、ゆとり教育を見直すということで、元通りの詰め込み学習・ドリル学習になってしまったらどうしようという危機感を感じています。

ただ、今回、寺島先生の勉強会に参加させていただいたり、ビデオや本から知り得たことから、少し見方が変わったところ疑問に思ったところがあります。小学校が長い私にとっては、土曜日がなくなって時間数が減ったことなど痛くも痒くもありませんでした。それを心配して「塾に入れた方がよいのか」と悩む親さんを見て、そんなことよりも、いろんなことに興味関心をもてる好奇心、授業で話をしっかり聞ける集中力、考えたことを表現する力などの方がうんと大事なのに、と思っていました。実際、塾の宿題に追われて学校の宿題ができなかったり、夜が遅いので学校ではいねむり・忘れ物と、さんざんなことになっているお子さんも少なくありません。しかし、中学校の英語教育の現場において時数の削減がこれほど大きな変化をもたらしていたことを今回初めて知りました。

しかし、未だに分からないことは、(コミュニケーション重視になり、昔よりも話せるようになったかどうか、と言う話題で)寺島先生のおっしゃってみえた「今の子供は言いたいことがない」ということの真相です。確かに私も最近の子供は表現力が乏しい(意欲もない)根気がないなど、子供の変化について感じるいろいろなことがあります。指定文献の中でも今の子は昔より英語環境がよくなっているのに話さない、とありました。これらは、ゆとり教育で時数が減っているからなののでしょうか?そんなはずはない、と思いたいのですが…。

小学校・中学校での「生活科」「総合学習」は、日本の子供達に生きてはたらく力をつけるのに必要な物として、この10数年、取り組まれてきました。そこへ週五日制も導入されて、以前よりも時間数は減りました。減ったせいで英語や数学の力が低下しているのでしょうか。学生に英語を教えていらっしゃる先生はどうお感じですか?ちょうど、いま先生が教えていらっしゃる学生は「生活科」の子供達だと思います。当時、「生活科をやるようになってから、子供が落ちて座って授業を受けなくなった」「根気がなくなった」と中学校から言われたりしました。しかし、そんなことよりも、問題解決能力を育てることを大切にしよう、という流れで「生活科」は続いてきたと思います。

先生は、今の学生たちの力ががっかり低下しているとお感じですか?しかし、先日お話を聞いて感心した岐大生(Oさん)はまさしく問題解決能力の高い方で、生活科の世代だと思うのですが…。少々の時間数の削減などもともしない、パイタリティーのあふれる学習の仕方ができる学生は増えていくはずだと思うのです。「総合学習」の世代は今、高校生だと思いますので、今後ますます学生の質は変化していくと思います。簡単に「ゆとり教育」の是非を問うことは私にはできませんが、大きくなった子供達はどんな学生になったのか、大変興味深いところです。寺島先生のお考えをお聞かせ下さるとうれしいです。

7 研修「最終日」を間近にして

寺島先生 050921

無沙汰しております。前回から随分日にちがあいてしまい、自分でも驚いています。申し訳ありませんでした。

お盆以降は自校の研究発表会・道徳訪問・教育委員会訪問（すべて10月です）に向けて土日も返上で仕事しております。9月以降、毎日の苦しかった運動会の練習もようやく終わりました。こんな日々は授業の準備など二の次になってしまいます。フィンランドの教師のように、授業を良くすることに力をかけさせてほしいと、この10数年ずっと感じているところです。

言い訳になりますが、うちには3歳になった息子がおり、核家族なので毎日家に帰ると戦争のようです。自分一人で眠ってくれるようになると、自分の読みたい本を読んだり、仕事をしたりすることも出来るのでしょうか…。この9月は毎週土日に子連れで実家に帰り、自分の両親に甘えながら、学校の仕事や研修のレポートをすすめてもらっていました。私の父親は高校の社会科の教師をしていましたので12年目研修で勉強していることを話すと大変興味を持ってくれ、一緒にビデオを見たり、今まで親子であまり話したりしなかった話題について考えを話し合ったりすることができました。

そんな綱渡りの日々の末、この3日ほど熱を出して寝込んでいます。季節の変わり目ですので先生もお体には十分お気をつけ下さい。終わりがけまで出来ていたレポートを一つ添付いたしました。28日には、今まで書いたレポートを持っていき、発表すればよいのでしょうか。実践報告というわけではないので、自分の考えたことを皆さんの前で話せばよいのでしょうか。そのときまでにビデオのレポートを一つと、書籍のレポートを終えることが出来るようにします。遅くなり、申し訳ありません。

8 「学びの共同体」の大切さ

寺島先生 050925

前回、大切なことを書き忘れ、失礼をいたしました。（熱のせいということでどうかお許し下さい）ゆとり教育と英語の学力の低下などに関わって、お忙しい中時間を割いて長いお返事を頂き、ありがとうございました。大変貴重なご意見を有り難く読ませて頂きました。お礼が遅れまして申し訳ありません。

先生のおっしゃるとおり、小学校の総合などでつけた力も中学・高校と進むに従って劣化してしまう、ということが言えると思います。小学校は明らかに体験重視になり、生活科・総合学習意外の教科の在り方も、「生きる力」を育てようと変化しています。国語ひとつとってみても、自分の考えを文章に書いたり発表したりする力をつけるためものになってきています。それは私が教師になった頃から、もしかすると実習生の頃にはすでに変わっていたかもしれません。

相手を意識したスピーチや文章作り、そのためのお話メモや構造メモなど。子供の頃にこんな授業を受けていたら今頃はもう少し話や文章がうまくなっていたかもしれないと羨ましくなりました。中学校でも生徒の意欲を引き出す教材の開発や力を伸ばすために「個に応じた指導」の研究などがなされていますが、高校受験や大学受験がある限り、大きく変わるわけにはいかないのだと思います。

NHKビデオ『変わる世界の学力マップ』では能力別学習の是非が問われるような場面がありましたが、ビデオに出てきた国々（ドイツ、フィンランド、韓国、日本）を比較する限りでは、むしろ能力別でないフィンランドの教育の方が全体的に能力が高くなった、という不思議な結果でした。

今回12年目研修で、メールを通じて他の先生方のレポートを読ませて頂いて感じたことは、同じビデオを見ても人によってこんなに目の付け所がちがうんだなあということです。もちろん知識の量・文章力といった点で参考にもなりましたが、それとは別に、これは「能力の上下」というものでは測れない他の人の、他の視点で考えるということの良さ、そういう学び方があるということを知りました。

同じ資料映像を見ているから、自分と同じようなところが話題になるのだろうと思っていると、ある人は別のところから切り口を見つけたり、別のところにこだわったりするのだと感じました。そう思うと、いわゆる「能力別」ではなく、同じゴールを目指すにしても、いろんなアプローチのし方をする「自分とは違う人達」と一緒に学ぶこと自体が、それ自体が有意義で楽しい学習だと思います。

今日も、実家でレポートを書いています。時間がかかってしまいましたが、とても面白かった『変わる世界の学力マップ』のレポートを添付します。私としては、近いうちに、このビデオを自校の研推長に見てもらい、「個に応じた指導」について研修を受けたいと願っています。もう少しビデオをお借りしていてもよろしいでしょうか。

9 おわりに

以上で「往復書簡」の紹介を終える。非常に長くなったが、家庭での育児や学校での仕事と並行しながら12年目研修に取り組んでいる教師の苦闘を理解していただくためには、やはりこれくらいの詳しさが必要ではないかと思ったからである。

同時にこの「往復書簡」から、研修生同士がどのように刺激を受け合っているかも垣間見ることができるのではないだろうか。教室で生徒同士が学び合う機会を与えることが必要であるのと同じように、この研修でも研修生同士が学び合う機会をつくることが私の目標の一つであったが、頂いたメールを読む限り、その目標は少しは達成されたように思う。

それにしても、この「往復書簡」を通じて分かったことは、いかに現場教師が時間に追われてゆとりのない教師生活を送っているかということである。NHKビデオ『変わる世界の学力マップ』で紹介されたフィンランドの教師には、既に午後4時には帰宅していて自宅でたっぷりと教材研究をする時間が保障されていた。また夕食時の家庭における団欒や夕食後の地域活動が「応用的読解力」を育てる土台となっている。

だとすれば日本の教育を前進させるために必要なのは、生徒のための「ゆとり教育」ではなく、むしろ教師のための「ゆとり教育」ではないかと、この映像を見て改めて思わされた次第であった。

<参考文献>

- 『フィンランドに学ぶ教育と学力』（明石書店、2005）、
- 『なぜフィンランドの子どもたちは「学力」が高いか』（国土社、2005）、
- 『競争しなくても世界一：フィンランドの教育』（アドバンテージサーバー、2005）